

V302a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用準備の現状 (3)

林克洋 (ISAS/JAXA), 田代信, 寺田幸功 (埼玉大, ISAS/JAXA), 高橋弘充 (京大), 信川正順 (奈良教育大), 水野恒史 (京大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 久保田あや (芝浦工大), 中澤知洋 (名大), 渡辺伸, 飯塚亮, 佐藤理江, 星野晶夫, 吉田鉄生, 小川翔司, 金丸善朗 (ISAS/JAXA), Chris Baluta (NASA/GSFC), 海老沢研 (ISAS/JAXA), 江口智士 (熊本学園大), 小高裕和 (阪大), 勝田哲 (埼玉大), 北口貴雄 (理研), 新居田祐基 (愛大), 太田直美 (奈良女大), 阪本菜月 (京大), 志達めぐみ (愛大), 塩入匠 (埼玉大), 白木天音 (奈良女大), 谷本敦 (鹿大), 寺島雄一 (愛大), 坪井陽子 (中央大), 内田和海 (ISAS/JAXA), 内田悠介 (東理大), 内山秀樹 (静岡大), 山田智史 (理研), 山内茂雄 (奈良女大), 米山友景 (中央大)

X線分光撮像衛星 (XRISM) プロジェクトは、2023年度の衛星打ち上げに向けて開発・運用準備を進めている。我々科学運用チームは、バス系やミッション機器の開発・運用チームとは独立に組織され、観測天体の公募や観測スケジュールリング、観測後のデータ処理、検出器較正データの最適化など、XRISMが科学成果を最大限に引き出すための科学運用に向けて、周到な準備を行っている。現在は打ち上げ前の最終調整段階にあり、打ち上げ初期におけるミッション機器立ち上げ時の運用や観測データの即時解析実施のための計画と訓練、定常運用期における観測計画プロセスの検証、地上試験データを用いた即時・高次データ処理およびアーカイブ処理のためのシステム運用試験、ヘルプデスクの立ち上げとその活動計画の樹立、さらに今後の公募観測に向けた観測提案システムの検証試験などを行なっている。これらの活動は、衛星運用および検出器開発チーム、NASA/GSFC や ESAC の地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと連携して進めている。本講演では、打ち上げ直前の科学運用準備のステータスをまとめ、今後の軌道上での XRISM 科学運用のプランを報告する。